

2009年 第3回「ワーク・ライフ・バランス大賞」受賞者

1. 「組織活動」部門

組織名	取組みの主なポイント	組織概要
<大賞> アステラス製薬株式会社 (東京都中央区)	—合併後の課題として、労働時間削減とMRの離職率低下を推進— ○合併後の課題として、労働時間削減とMRの離職率低下等を取り上げ、労使委員会(人事制度協議会)を設置し、①社員の意識改革②制度面での枠組改革③職種特性を考慮した業務実態の改善に取り組んだ。 ○毎週金曜日を8:45～16:00とするFF Day (Family Friday) の実施：制度化に先立ち実施したBPR及び労働時間をトレースした結果、2008年度は、前年比で上期約4時間/月、下期約7時間/月の短縮が実現。 ○医療情報担当者(MR)など営業職対象に「結婚時同居支援制度」を導入したことで、男性MRの5倍の離職率であった女性MRの離職率が、2005年約11%から2008年約6%と大きく改善した。	設立:1923年 業種:製薬業 従業員:5,473名
<優秀賞> 大和証券グループ (東京都千代田区)	—トップのリーダーシップのもと、グループ企業全体で推進— ○「高次元のワーク・ライフ・バランスの実現」を目指し、CEOがCWO(Chief Work-life-balance Officer)を兼務、「ワーク・ライフ・バランス推進委員会」で委員長として自ら活発に議論・検討、様々な施策を通じて意識の浸透等を図った。 ○人事部門内に「ワーク・ライフ・バランス推進課」を設置し組織的に推進、課員が直接社員に語りかけるセミナーの継続実施等により社員の理解促進に努めた。 ○「19時前退社の励行」を徹底したほか「年休取得の促進」により年次有給休暇消化率は2007年度約37%から2008年度約57%とアップした。	設立:1943年 (創業:1902年) 業種:投資・金融サービス業 従業員:15,224名
<優秀賞> 萩市民病院 (山口県萩市)	—全員参加型会議で働きやすい勤務体制を検討して実現— ○全員参加型会議を開催して「働きやすい勤務体制」を検討し、①臨時職員の多様な勤務形態の導入②24時間保育体制の確立③短時間正職員制度の導入に取り組んだ。 ○この結果、開院以来10%近かった看護師の離職率は2008年5.9%と下がり、目標の採用数が確保され、手薄だった看護体制が改善された(全国平均で病院看護師の離職率は12.6%)。(7対1入院基本料を算定できるまで看護体制が増強できた)	設立:1951年 (移転新築により、2000年萩市民病院開設) 業種:医療機関 従業員:196名

2. 「普及支援活動」部門

組織名	取組みの主なポイント
<優秀賞> 株式会社キッズベースキャンプ (東京都世田谷区)	—ワーキングマザーのキャリア継続のために、学童保育支援サービス事業を展開— ○民間企業として学童保育(就学児童保育)に取り組み、ワーキングマザーのキャリア継続のためのサポートを行っており、現在14店舗、会員数約1,700名と増加。 ○プログラム内容は、サマーキャンプなどの課外活動や、ボランティア活動などの地域コミュニケーション、就業体験や工場見学などの社会体験・キャリア教育など、多彩である。
<優秀賞> 足立区 (東京都足立区)	—ワーク・ライフ・バランス推進企業の認定と全庁的な行政サービスによる支援— ○ワーク・ライフ・バランス推進企業に対して、区の認定制度を導入し、従業員の子どもの保育所・学童保育入園時や親族の特別養護老人ホーム入居時の審査基準加点など、企業や従業員の多様なニーズに応じた行政サービスを提供し、幅広く支援している。 ○そのほか、区内中小企業への両立支援アドバイザー派遣やコンサルタント派遣により、ワーク・ライフ・バランスに関わる経営課題解決をサポート。
<奨励賞> 株式会社ワイズスタッフ (北海道北見市)	—「ネットオフィス」によるテレワークを普及促進し、柔軟な働き方を支援— ○育児・介護など様々な要因で、会社に毎日通勤できない人や、地元での勤務を希望する人に対し、「ネットオフィス」環境を用意し、テレワークによる柔軟な働き方を提供している。 ○自社のビジネスモデルである「ネットオフィス」のノウハウを広く公開し、全国に情報発信をすることで、柔軟に働ける就業スタイルとして普及を図っている。

3. 「標語」部門

- 「見直そう 仕事時間 見つめよう 自分時間」 (会社員 女性)
- 「仕事ヨシ! 生活ヨシ! 心体ヨシ!」 (労働組合 女性)
- 「めりはりワーク・いきいきライフ」 (労働組合 女性)